

寺号の石標



山門の手前右側に、鬘貝（ひいき）に乗せられた寺号の石標が建っていますが、
総持寺の草創には亀が深く関わっています。
但し、鬘貝は龍が生んだ9頭の神兽・竜生九子（りゅうせいきゅうし）の一つとされる
中国の伝説上の生物で、亀に似ていますが亀ではありません。
重い物を負うことを好むといわれ、石碑の土台の装飾に用いられることが多く、石碑の台になっているのは亀趺（きふ）と呼ばれます。

総持寺山門



総持寺（そうじじ）

茨木市総持寺 1-6-1

高野山真言宗 補陀洛山

元慶3年（879）創建。

藤原山蔭が、幼少時に継母に川に捨てられたが、父の藤原高房に観音の祭日であるために助けられた大亀によって救われ、それに感激した高房が亀に乗った観音菩薩像を製作させて祀ったのが起源とされる。

千手観音様を御本尊としています。
総持という寺名は皆様の願いを総て持ち備えた仏様のお寺という意味です。

総持寺では観音様の他、薬師如来、地蔵菩薩、不動明王、弘法大師、稻荷大明神、如来荒神など多くの仏様や神様をおまつりしています。

入母屋造り本瓦葺きの楼門です。総持寺の象徴的な建物で、台地の先端に建てられ平野を眺望しています。

山門（仁王門）

江戸時代中期（18世紀初頭）

茨木市指定有形文化財

三間一戸、入母屋造、本瓦葺の楼門です。

仁王門は総持寺では山門と呼び、寺の正門として象徴的な建築物です。

楼門形式の門としては、北摂地方には勝尾寺（箕面市）、久安寺（池田市）、総持寺（茨木市）の3棟のみが現存する。